《編集・発行》真鶴町自治会連合会　《発行代表者》朝倉　隆　《編集責任者》青木友晴

令和7年12月15日
第121号

真鶴 自治会だより

皆、皆が住みよい町に

自治会連合会　視察研修

令和7年11月11日　連合会役員を主に総勢15名で西伊豆方面に視察研修に行って来ました。本年度は土肥町の津波避難施設見学と、松崎町役場を訪れ防災士の方々と防災活動を主に意見交換を行いました。また、土肥町から松崎町へ移動の道中、重要文化財の岩科学校を見学。

◆伊豆市土肥町　松原公園　津波避難複合施設（テラッセ　オレンジ　トイ）

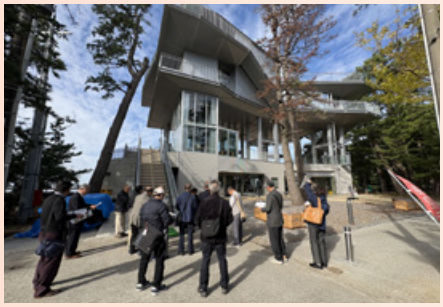
○土肥海水浴場に隣接する松原公園内に令和6年6月完成の施設。低層階は物販の店舗、3階が避難スペース／レストラン、4階が避難スペース／展望台として建築された「防災」と「観光」の機能を兼ね備えた全国初の津波避難複合施設。平時には観光目的で使うという、施設有効活用の工夫に感心。

○鉄筋4階建て　建物の最高高さ18・8m　避難面積600㎡　可能避難人数約1200名

○津波想定高さ海抜10m　余裕高4mを想定し、3階以上が避難スペース

○3階に備品倉庫があり、飲食料・簡易トイレ・防寒アルミシート・上履きなどを備蓄

○4階に非常用発電機室　ディーゼル発電機を設置していて、1・5日発電可能



◆松崎町　国指定重要文化財　岩科学校

明治13年9月完成　なまこ壁や唐破風など日本の伝統的な様式にアーチ型の窓や半円形のバルコニーといった洋風を取り入れた伊豆地区最古の小学校。

昭和50年に重要文化財に指定。総建築費用の約4割が村民の寄附だったようで、当時の村民の地元愛と教育への期待が高かったのでしょうか。

◆松崎町役場

松崎町からは静岡県ふじのくに防災士会松崎町委員会会長と委員1名、松崎町役場総務課消防防災係長が出席。

○松崎町は人口5518人（令和7年9月）で高齢化率は50％以上。人口・世帯の減少の様子は真鶴町と同様。異なるのは面積が真鶴の約12倍も広いのと、自治会加入率と防災訓練への参加率の高さ。真鶴町の9単位自治会に対し松崎町は35地区あり、指定避難所は9施設。各地区から防災委員を選出しており今年度は76名。また町全体で防災士が17名。防災訓練は年3回（総合防災訓練・地域防災訓練・津波避難訓練）実施していて、地域防災訓練では地区によっては参加率が9割以上のことも。

また小学生には県主催の防災教育、中学生は避難訓練への参加など静岡県の防災に対する意識の高さがうかがえます。真鶴町の自治会加入率と防災訓練参加率は松崎町に遠く及ばず、これは当自治会の頭の痛い課題ですが、真鶴町自治会連合会も昨年から防災士を増やす活動や、避難所運営の研修も進めています。

○意見交換の後は、松崎町からはNPO法人伊豆学研究会理事　渡辺攻様より、松崎町の『産業の変革「農業と漁業」』、真鶴町からは朝倉会長の「江戸時代における鮮魚輸送」の講演を行いました。

（文責　広報部　髙瀬哲夫）

防災訓練の振り返り

9月27日㈯、4箇所の指定避難所（まなづる小学校、真鶴中学校、ひなづる幼稚園、岩ふれあい館）で中学生にも参加してもらい総合防災訓練を実施。避難所運営が比較的順調に実施できた所もあれば、指示系統がうまく機能せずやや混乱のあった避難所があったのも事実。ただし、問題点や課題は見えてきたので、優先度をつけて対応を検討していきます。

令和7年度　総合防災訓練回顧と今後について

自治会連合会 会長　朝倉　　隆

1.訓練全体（訓練が始まる前）について

訓練の必要性や進め方などを参加した住民（中学生）にしっかり説明し理解してもらう。

①訓練の必要性

○阪神淡路震災では地震直後にがれきの下敷きになり、自力で脱出できなくなった要救助者約3万5,000人のうち、近所の住民が救出したのは約2万7,000人で、警察消防・自衛隊が救出したのは約8,000人だった。災害の規模が大きければ大きいほど救助活動を行う行政機関も被災する可能性が高く、助けに来られない。こうしたことから大規模な災害が発生した時は、地域住民が「自分の命は自分で守る」自分たちのまちは自分たちで守る」という共助の精神が重要になる。

○災害発生時には町職員は自らも被災している上に、人命救助、二次災害防止、被害情報の集約や発信、必要な物資・食糧の確保、危険箇所への対応などに忙殺されているため、避難所に十分な人員を配置できない。そこで避難所の運営は、原則として避難者を中心とした自主組織によって運営されることになる。

②避難所開設訓練の進め方～ポイントは以下の通り

○避難所施設の安全確認を行う。

○避難者は避難者カードを記入する。

○避難所運営委員会を立ち上げる。委員長、副委員長（2名）、総務班、施設班、救護班、食糧・物資の班長を決める。

○避難者を班分けする。

○各班に分かれて、防災訓練を行う。各班長は班員に簡潔に指示する。

③避難訓練の状況設定

○最悪の事態を想定して訓練を行う。電気・水道は使用できない想定で訓練することが肝要。従ってハンドマイクで如何に伝達するか工夫がいる。参加者が多い場合、左右に広げざるを得ないので左・中・右のエリアに分けてエリア毎に一文まるごと拡声する。

2.各班の活動について（主な意見）

①総務班

○地区の全世帯の電子データを持っていないと在宅避難者名簿を作成することができない。

②施設班

○体育館内の照明などの電源が必要になる。

○避難所運営用準備として、避難所運営に関する書類・筆記用具だけでなく今回の訓練で使ったプラ箱を。

・マジックペン・画材やA4用紙・ふせん・のり・テープはさみ・カッター・ホッチキスなど。

・町の防災倉庫の保管品リスト

・建物被災状況チェックシート・避難所スペースレイアウト

・避難所運営委員会の委員長・副委員長・各班長（副班長）がわかるベスト

・懐中電灯

・消毒用アルコール

③救護班

○内容物（使用期限のあるものはその期限を明示）の一覧表があるといい。

④食料・物資班

○食料・飲料水についての消費期限一覧表があるといい。

総合防災訓練について
町議会議員の皆さんと意見交換しました

2025年11月18日実施

防災訓練に関し、自治会連合会のこれまでの取り組みや経緯、および本年度の訓練の様子を説明し、議員の皆さんと意見交換を実施しました。

町民の防災への意識向上・啓発、訓練参加者を増やす必要性や課題など、意見のすり合わせができたのではないかと思います。

防災士になられた方々に聞きました

視察研修に参加して

城北自治会 防災防犯部長　畠山　克美

9月初旬、防災士研修センターの講習を受け防災士となり、視察研修に初参加いたしました。

視察先は松崎町。西伊豆南部にあるこの町は、総面積の64％が山林で二つの流域に平地があります。ハザードマップには地震による津波被害想定が、海岸から約1・5㎞範囲の住宅地が浸水域で、最大津波到達時間が6分と早く避難警報を待たずにすぐに避難する事が呼び掛けられている町です。松崎町の町議会議員や町内会の地区長等の方達との、意見交換で特に印象に残った事は、町民の防災意識が高いと感じました。年3回行う防災訓練の住民の参加率が高く、35の各地区に防災士がおり、町議会議員にも防災士がいます。

真鶴町の想定地震には、神奈川県西部地震（震源が真鶴の沖合数㎞）や大正型関東震災（震源が相模湾）など震源の近いものがあります。自然災害を防ぐ事はできませんが、減災と被災後の復旧に備える事は出来ます。危機意識を持って防災士講習で得た知識を広めていきたいと思います。

防災訓練に参加して

M・T（土肥道自治会）

今年の9月27日に行われた防災訓練には、初めて自治会として避難所の立ち上げを体験する形で参加しました。避難所の安全確認や開錠から始まり、参加者全員が総務・施設・救護・食糧物資の各班に分かれて、実際の流れに沿って作業を進めました。さらに今年は中学生の皆さんにも協力していただき、新聞紙スリッパづくりなど、身近な材料を使った防災グッズの作成にも取り組み、地域で一緒に学べる良い機会になったと感じました。その一方で、避難所運営には思っていた以上に多くの判断や調整が必要で、戸惑う場面も少なくありませんでした。参加者の多くが初めての経験だったこともあり、役割分担がうまく機能しない瞬間があったり、私自身も状況にうまく対応できず反省するところがありました。ただ、こうした体験があったからこそ、実際の災害時にはどんな点が難しくなるのかを具体的に知ることができ、大きな気付きにつながったと思います。今回の訓練を通して、「次はこうできたらいいな」と思える部分がいくつも見えてきました。たとえば、判断役を支える仕組みをもう少し整えたり、地域の中で協力しやすい雰囲気をつくったりすることなど、次回にいかせそうな点が多くあります。

今回の経験を心に留めながら、次回は、自分にできることを少しずつ広げていきたいと思います。地域の皆さんと、継続して学び合うことの大切さを改めて感じられる、実りある訓練でした。

編集後記

◆今回の防災訓練は、令和7年6月に実施した避難所運営疑似体験をもとに、9月総合防災訓練を各避難所にて中学生と共に地域の皆様と行ったが、運営上の課題や改善が必要な点が出されたと思いました。

◆今年も詐欺電話事件が一段と増しています。

一例ですが「あと2時間でお使いの電話番号が使用不能になります。詳しい説明が必要な場合は1番を押してください。」「あなたの名義の電話が詐欺に使用されているため、あなたが詐欺の共犯者として捜査線上に浮上しているので調べる必要がある。」この様な電話は詐欺です。相手の指示に従わないでください。特殊詐欺の手口は日々巧妙になっています。少しでもおかしいと思うことがあれば警察署に相談しましょう。

◆火災は、空気の乾燥や暖房器具の使用が増える「秋から春にかけて」特に発生します。月別では1月から3月がピークとなる傾向があります。火の取り扱いを正しく行い定期的な器具の点検が必要です。火災が発生した際には、速やかに避難することが最優先です。

今年も自治会だよりをご愛読いただきましてありがとうございます。　広報部　高橋靖彦

自治会連合会ホームページ

自治会の活動内容を紹介しています。是非ご覧ください。